



震災5か月、被災地の現状を調査

遠藤守ら都議会公明党は8月9日、10日の両日、3・11大震災からの復旧状況の調査のため、福島県を訪問した。福島市内では、都の現地事務所の職員から、主に放射線対策について聴取する一方、津波災害で甚大な被害を受けた相馬市沿岸部などを視察した。



県立自然公園・松川浦もこの惨状

● 県外避難者への情報提供が課題 ●

福島県の現在の最大課題は、県外避難者約4万9000人に県情報を如何に提供するか。また、津波被害からの復旧は想像以上に遅れ、かつて現地を訪れた議員の言葉を借りれば、「雑草が生えてきた以外、風景はほとんど変わっていない」という厳しい現実だった。



復旧が進まない相馬市の沿岸部



常磐線「新地駅」のあった場所

● 視察受け、発電所の復旧を後押し ●

今回の視察では、今後のエネルギー需給の調査のため、被災した「相馬共同火力発電所」（東京電力と東北電力の共同設立。相馬郡新地町）も訪問した。発電所の復旧に向け一番



タンカーは震災当日のまま（相馬湾）

のネックになっていたのが、防波堤の修復の見通しが立たないこと。防波堤が直らなければ、石炭積み上げ用設備の復旧工事も着手できない。この説明を聞いたわれわれは、直ちに国会議員を通じて国交省に働き掛けた結果、9月下旬の工事開始が正式決定した。